

はじめに

世界の先住民の中には、共通した思想があります。

木に実がなると三分の一は自分が生きるために食べる。

三分の一は、自分の子孫のためにもがらないで残しておく。

最後の三分の一は、人間以外の生命のために、

やっぱりもがらないで残しておく。(灰谷健次郎 1997)

本書はホリスティックな教育やケアをキーワードに、哲学思想、臨床教育、ESD（持続可能な開発のための教育）、オルタナティブスクール、多文化共生教育など、分野を超えた研究者かつ実践者が集って、時代のターニングポイントにある現代の課題に果敢に挑もうとしているものである。

80年代から90年代にかけて興隆した、近代の諸原理を根本的に問い直す領域横断的な思潮において、教育分野から合流した一つが「ホリスティック教育」である。脱構築的なポストモダニズムの後、相対主義を超えて時代の課題に向き合うことが求められるなか、「ホリスティック・アプローチ」への関心がふたたび高まってきた。それは、持続可能な地球と人と社会の代案的なあり様を構想するユネスコ等の国際社会の動向においても顕著である。

ロシア・ウクライナの戦争やパレスチナでの虐殺、国内外のヘイトクライムなど、現代世界は分断や格差、差別、排除の問題が複雑に絡みあいながら深刻化している。気候変動の影響や自然災害の増加などを人類が如実に体感するような時代になった。地球上の自然環境に人が生かされていることを謙虚にとらえ、多様な背景の他者とともに、どのように歴史や文化を認め合い共に生きることができるか、領域を超えた研究や実践が求められている。

本書ではまず第1章において、北米でホリスティック教育が提唱された時点に遡ってその基盤理論を押さえ、そこから展開した主な理論的実践的成果を振り返ったうえで、その現代的意義と課題を明らかにする（吉田）。

そして、第I部において、共生／ESD／多文化をキーワードに、ホリスティック・アプローチによる教育／ケア実践の展開を検討する。第2章では、能力

開発型にとどまっている教育から人間以外の存在（ノンヒューマンズ）との共生をも視野に入れた教育への方向性を示す（永田）。第3章では、ESD（持続可能な開発のための教育）で注目されているホールスクール・アプローチに関わって、「コモナリティ」概念に注目した教育環境のあり方を論じる（曽我）。第4章では、多文化共生教育について、ホリスティック・アプローチにとって重要な脱植民地化の視点から意義と課題を考察する（孫）。

第Ⅱ部においては、癒し／対話／超越性を基底テーマに、ホリスティック教育/ケアの思想と実践を往還しながら考究する。第5章では、オープンダイアログにおける対話主義の原則において、垂直方向と水平方向の二種類のポリフォニーの観点から検討する（池田）。第6章では、教育の根本に「癒すこと」を据えるシュタイナーの教育観を検討し、教育のそうした側面を強調することがはらむ危うさについても述べる（河野）。第7章では、世俗の時代を超える新しい超越性の地平を論じる Ch. テイラーの理論枠組みを用いて、シュタイナー思想を読み解く（奥本）。

第Ⅲ部では、全体性／国家／平和をテーマに、ホリスティック教育/ケアの哲学的思想的な原理を探究する。第8章では、レヴィナスの『全体性と無限』を読み直しながら「全体性（トータリティ／ホールネス）」概念を再考する（森岡）。第9章では、国家という「全体」を、京都学派木村素衛の国民教育論の検討を通じて問い直す（西村）。第10章では、「ホーリズム」の提唱者スマッツに遡り、彼の「文明化の使命」を背負った格闘のなかに、啓蒙近代の両義性と向き合うホリスティック思想の課題を検証する（吉田）。

最後に、「ホリスティック教育/ケア」に関わる研究動向を通時的に概観する。まず、ケアとくに看護領域でのホリスティック概念を用いた研究・実践を、国際動向に着目してレビューする（青木）。次に、日本におけるホリスティック教育研究を整理しつつ、その広がりや深まりを示す（福若）。

「ホリスティック (holistic)」は、「全体 (whole)」・「癒し (heal)」・「聖なる (holy)」等に共通する語源「ホロス (holos)」から20世紀終盤に辞書に載り始めた造語であるが、本書を通してこのコンセプトのもつ意義が明らかになるだろう。そして、タイトルや本文の中で多用されている「/ (スラッシュ)」についても、「ホリスティック」の概念そのものをどうとらえようとしているかと

いう、執筆者たちの思いが顕れており、それは各章に散りばめられている。その一つひとつのかけらを拾い集めながら、読者のみなさんと対話していくことができれば幸いである。

孫 美幸

参考文献

灰谷健次郎（1997）「私が『天の瞳』で書きたかったこと」『小説新潮 7 月臨時増刊 灰谷健次郎まるごと一冊』新潮社，pp. 79-84。

教育とケアへのホリスティック・アプローチ

ー共生／癒し／全体性ー

目 次

はじめに (孫 美幸)

第1章 ホリスティック・アプローチとは何か 1
—定義, 理論モデル, 人類史的意義—

吉田 敦彦

1. はじめに 1
2. 「ホリスティック holistic」の定義 3
3. 「ホリスティック・アプローチ」の6つの理論モデルと研究事例 8
4. ホリスティックな探究の人類史的意義 19

I 共生／ESD／多文化

第2章 教育の人類中心主義を問い直す 31
—再想像力ではぐくむ惑星意識—

永田 佳之

1. 教育の人類中心主義 31
2. 開発至上主義のトーンダウン 34
3. 再想像の位相へ 38

第3章 コモナリティから考えるホールスクール・アプローチ 47
—社会変容をもたらす「共」のふるまい—

曾我 幸代

1. はじめに 47
2. 変容をもたらすホールスクール・アプローチ 49
3. コモナリティ——「共」のふるまい 54
4. ホールスクール・アプローチにみるコモナリティ 60
5. おわりに——社会変容をもたらすために 63

第4章 ホリスティックな多文化共生教育 67
—脱植民地化の視点から考える—

孫 美幸

1. はじめに 67
2. 日本のホリスティック教育と植民地主義 68
3. SDGs の理念から考える多文化共生教育の脱植民地化
—2000年代からの議論をアップデートするには? 73
4. 新たな多文化共生教育実践へ
—排除の構造を見極め、土着性を大切にし、行動につなげる学び 76
5. おわりに 86

Ⅱ 癒し／対話／超越性

第5章 対話主義は何を恢復するか 91
—水平方向および垂直方向のポリフォニーの観点から—

池田 華子

1. はじめに 91
2. 二種類のポリフォニー 93
3. 人間経験の水平方向と垂直方向 99
4. 現代における対話への期待とその課題 102
5. おわりに — 対話主義は何を恢復するか 105

第6章 「癒すこと」としての教育と調和 115
—シュタイナー教育思想における「健康」概念に着目して—

河野 桃子

1. はじめに — 調和に向かう「教育/ケア」の系譜 115
2. シュタイナーによる「癒すこと」としての教育観 119
3. 「癒すこと」としての教育観がもつ危うさ 122
4. 同時代の「健康熱」とそれに対するシュタイナーの批判 124
5. 教育実践のなかの「癒すこと」 127
6. おわりに — 「癒すこと」の視点から見た「教育/ケア」の探求へ 130

第7章 多様性の受容における超越性の意義 137
—Ch. テイラーからみた R. シュタイナーの地平論—

奥本 陽子

1. はじめに 137
2. テイラーの地平論 138
3. シュタイナーの地平論 144
4. おわりに 152

Ⅲ 全体性／国家／平和

第8章 「全体性」という困難 161
—エマニュエル・レヴィナス『全体性と無限』を中心に—

森岡 次郎

1. はじめに — 「全体性」には「外部」がない 161
2. 「近代」とホリスティック
— 室井麗子による批判的検討を手がかりに 163
3. 「全体性を志向する私」という様態 166
4. 「無限を志向する私」 174
5. 語り得ないものを語り尽くさないために 176

第9章 教師が国家という「全体」と向き合うための
一つのレッスン 181
—戦中の木村素衛による「意味の争奪戦」の戦い方—

西村 拓生

1. はじめに — 国家という「全体」と教育の問い方 181
2. なぜ木村素衛か — 国民教育論の文脈 183
3. 『国家に於ける文化と教育』の構成 185
4. 「国民」の教育、国家と教師 186
5. おわりに — 「意味の争奪戦」のアクチュアリティ 201

第10章 「ホーリズム」再考 205

—提唱者にして国連憲章前文の起草者スマッツに遡って—

吉田 敦彦

1. はじめに 205
2. 「ホーリズム」の提唱者スマッツの人と仕事 206
3. 21世紀の国連・ユネスコ
—平和と持続可能性へのホリスティック・アプローチ 219
4. 結び—新しい普遍性へのホリスティックな問いかけ 227

◆教育・看護分野での動向◆

【1】看護分野におけるホリスティック・アプローチの概観 237

—国際動向を中心に—

青木 芳恵

1. はじめに 237
2. 医療分野におけるホリスティック・アプローチ 237
3. ホリスティック・ナーシングの概観 241
4. 日本におけるホリスティック・ナーシング 247
5. ホリスティック・ナーシングの展望と課題 250

【2】日本を中心とした「ホリスティック教育」の30年 255

福若 真人

1. はじめに 255
2. 日本における「ホリスティック教育」をめぐる動向（年表） 256
3. おわりに 266

おわりに（河野 桃子） 269

人名索引 273

事項索引 275